

令和4年第20回宝塚市教育委員会の会議（定例会）会議録

- 1 開催日 令和4年12月1日（木）
- 2 場 所 宝塚市役所 2-4・2-5会議室
- 3 開会時間 午後2時00分
- 4 閉会時間 午後3時00分
- 5 出席した委員の氏名
五十嵐 孝教育長、木野 達夫委員、篠部 信一郎委員、松浦 一枝委員
及び石井 克馬委員
- 6 除斥した委員の氏名
- 7 委員及び傍聴人を除く、議場に出席した者

学校教育部長	坂本 三好	教育企画課長	岡本 進
社会教育部長	番庄 伸雄	職員課長	奥田 利富美
管理室長	福井 健介	学校教育課長	平野 聖幸
		教育研究課長	山口 直人
		教育企画課係長	板垣 慎一郎
		教育研究課係長	岡坂 隆志
- 8 会議の書記
教育企画課事務職員 藤原 明穂
- 9 議題
 - 議案第30号 令和5年度（2023年度）宝塚市公立学校教職員異動方針の決定について
 - 議案第32号 令和5年度（2023年度）宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定について
 - 報告事項 令和4年度（2022年度）全国学力・学習状況調査「宝塚市の結果概要」の作成・配布について

会議の概要

開会 午後 2時00分

五十嵐教育長 それでは、令和4年第20回宝塚市教育委員会の会議（定例会）を開催いたします。傍聴希望の方はいらっしゃいますか。

岡本課長 おられません。

五十嵐教育長 それでは、本日の署名委員は篠部委員でございます。よろしくお願いいたします。

本日の付議案件は、議決事項2件、議決事項以外の案件1件です。

それでは、進行について事務局からお願いします。

岡本課長 本日の付議案件は、議決事項2件、議決事項以外の案件1件です。

案件については、一覧の通りです。

なお、議案第30号及び議案第31号につきましては、令和5年度の教職員の異動方針に関する案件ですので、一括でのご審議をお願いいたします。

五十嵐教育長 議案第30号 令和5年度（2023年度）宝塚市公立学校教職員異動方針の決定について

議案第31号 令和5年度（2023年度）宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定について

担当課より一括して説明をお願いします。

奥田課長 それでは職員課から、議案第30号 令和5年度（2023年度）宝塚市公立学校教職員異動方針の決定について、議案第31号 令和5年度

（2023年度）宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定につきまして、一括して提案理由を御説明させていただきます。

本件につきましては、令和5年4月1日に行います、公立学校と公立幼稚園の教職員に係る異動につきまして、その方針を決定しようとするものです。

公立学校は学習指導要領、公立幼稚園は幼稚園教育要領に基づき、それぞれ教育課程が実施されております。学習指導要領や幼稚園教育要領では、それぞれの発達段階に応じまして、子どもたちの「生きる力」を育むことを基本的な考え方としており、その狙いを実現させるためには、学校・幼稚園において創意工夫による教育課程の実施と、開かれた特色ある学校・幼稚園づ

くりのより一層の推進が重要とされています。

これらの観点を踏まえ、令和5年度の異動方針は、全市的視野に立ち、公正かつ適切な人事異動を行うものとし、清新明朗な気運の醸成に努め、もって学校・幼稚園運営の活性化を図ろうとするものです。説明は以上です。

五十嵐教育長 ありがとうございます。

それでは、ただ今の件について、何か御質問等ございますでしょうか。お手元の異動方針に目を通していただいて、質疑があればお願いいたします。

木野委員、お願いいたします。

木野委員 令和4年度と少し変わっているようですが、変わっているところと、もし理由があればお願いします。そんなに大きくは変わっていないですか。

奥田課長 基本的には変わっていないですが、公立学校の異動方針の(3)配置換で事務職員の異動方針を変更しています。昨年度までは、過去に起きた事務職員の不正経理の関係で複数年同じ学校に在籍させることのないようにという、県の異動方針通りに記載をしておりました。ただ、事務職員だけそういった非違行為のことを強調するという点に反発があったため、そこは少し言葉を変えて、非違行為のことは載せないようにしております。

これに基づいて具体の要領を作成しますが、そちらの内規的なものについては、変わらず県の方針に基づいて、長く同じ学校に在籍させることがないようにという記載を残しております。変更点はそこぐらいかと思います。

木野委員 幼稚園は文言の整理ですか。

奥田課長 はい。おっしゃるとおりです。

木野委員 ありがとうございます。

五十嵐教育長 6ページ以降に資料がいくつか出てきています。これについて何か説明はありませんか。

奥田課長 異動方針には、(1)現任3年以上在勤したものを異動対象とすると書いておりますが、これを基に作成する要領では、昨年度までも、在勤6年以上の教職員は積極的に異動させるという取扱いをしております。8ページを御覧いただきますと、現在同じ学校に6年以上在籍している教職員の割合が20.7%となっておりますが、この方針に基づいて、年々減少傾向にあります。今年度も引き続き、同一校に6年以上在籍している者については、積

極的な異動に取り組んでいきたいと思っております。

あと、年齢や男女別の構成は、6ページの通りです。やはり小学校を中心に女性の教職員の割合が多くなっておりまして、そういった年齢、性別の構成も異動の中で極端に偏りが無いよう配慮して異動させていくように心がけます。以上です。

五十嵐教育長 今の説明の中で、8ページの在籍年数の表の中で、10年以上という人もまだ結構いますよね。10年以上の長きに渡って在籍する理由があれば教えていただけませんか。

奥田課長 総じて、その学校特有の課題、問題点について中核を担って担当している教員がいますが、そういった教員は、学校長から人事異動に関するヒアリングをする際に、強く留任を求められるケースがあります。その方が長く在籍すればするほど中核を担っていくのは当然なので、それだけを理由にずっと異動させないとなるとベテランばかりになっていきます。

しかし、その学校の特別な事情というのを勘案して、異動してしまうと学校経営が成り立たないという判断がなされた場合は、10年以上であっても異動させないということはあります。ただ、当然学校の中で新陳代謝を図り、後進の育成をすることは重要ですので、それは、我々からも学校長に強くお伝えしており、現在は10年以上もだいぶ減ってきている状況です。以上です。

五十嵐教育長 減ってきているとは思いますが、今言われたように学校運営上、異動が難しいという場合もあるでしょうし、もう一つ思いますのは、産育休ですね。それを繰り返しているうちに、出るタイミングがなくて、長くなるという場合もあるのかと思います。でも、以前に比べると随分減りましたね。

奥田課長 補足ですが、先ほど教育長からもお話がありました育休等ですが、産育休の間は在勤年数として算定しないと理解されている学校長がいらっしゃると思いますが、実は産育休の期間も在籍年数にカウントされます。産育休中も含めて6年以上同一校に在籍されている方は、異動の対象にはなりますが、異動のタイミングで産育休中の場合は当然異動できないので、結果的に産育休が長くなれば長くなるほど在籍年数が伸びていくというケースはあります。ただ、産育休があるからその分計算されずに結果的に長くなるというケースはなく

なっていますので、そういう面でも数は減ってきているかと思います。

五十嵐教育長 確認ですけれども、産休育休明けで復帰される場合、元いた勤務校に戻ってくるというのが原則だったと思いますが、例えば、続けて産育休を取られたら、その学校に在籍しているけれども4・5年勤務されていない。そうになると、5年後に戻ってきたときに職員もだいぶ入れ替わってもいるので、元の学校でなくて、新たところで気分一新やりたいというような希望があった場合でも、元いた学校に戻ってくるのか。そういう場合には配慮して異動することもできますか。

奥田課長 あくまで異動させない配慮をしているだけなので、御本人の希望等で特に不利益な、不当な人事とならないのであれば問題ないかと思います。

五十嵐教育長 絶対に元の学校に戻らないといけないわけではないということですね。
異動方針につきまして、他に何か御質問ございますか。石井委員、お願いいたします。

石井委員 先ほどの在籍年数のところですけれども、10年以上、6年以上というのは、それぞれ割合的に目標値などはありますか。

もう一つが、7ページの平均年齢の推移で、10年後にいきなり42歳になっていますが、ここは何かお考えがあるのか、このまま見守る予定なのかお伺いしたいと思います。

奥田課長 まず、6年以上、10年以上の在籍者の目標値ですが、特に明文化して目標設定はしていません。ただ、異動方針の中で6年以上は、基本的には異動させる方向で考えておりますので、少なくとも10年以上は0に持っていけないといけないと思っておりますし、6年以上も基本的には0に近づけていくような形で考えています。

あと年齢の推移ですが、ここはこれからの少子化等による採用の抑制や定年延長制もあるので、そういったところで平均年齢が上がってくるのはある程度仕方がない部分かと認識しています。以上です。

石井委員 分かりました。

五十嵐教育長 10年後の予測はどうやって出しましたか。

奥田課長 今の在籍者と児童の推移からある程度の学級数などが分かりますので、その推計を基にして平均値を求めております。

五十嵐教育長 近年、こういう数字を出すのが難しいと思うのが、昔であれば新任の先生は22歳前後で計算できましたが、今は年齢制限がほぼなくなってきていますから、新任でも40代あるいは、50代ということもあり得るわけであって、これから先はその平均年齢を出すのは非常に難しいかなと思っていたんですが、あくまでも平均的なところで予想を立てられたということですね。

奥田課長 おっしゃるとおりです。なので、少し現実と乖離することは出てくるかと思えます。

五十嵐教育長 この表は5年前からになっていますので、大きく上がっているように見えますけれども、どうしても平均年齢は山ができていってしまいますので、たぶん以前にもこれより平均が高い時があったと思います。ただ、退職年齢が65まで伸びるというのは決まっておりますので、これから先は上昇がまだしばらく続くような気がします。そこがやや不安ですね。

奥田課長 子どもの数が減ってきますので、先ほど申し上げたように教職員の新規採用も減ってこようかとは思いますが。

五十嵐教育長 そうですね。先生は若い方が良いと思いますが、そういうわけにもいかないですね。

他に質疑があればお出してください。御意見ございませんか。よろしいですか。

委員 (なし)

五十嵐教育長 それでは、議案第30号 令和5年度(2023年度)宝塚市公立学校教職員異動方針の決定について、議案第31号 令和5年度(2023年度)宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定について、以上は原案通り可決いたします。

それでは続きまして、報告事項 令和4年度(2022年度)全国学力・学習状況調査「宝塚市の結果概要」の作成・配布について、担当課より説明をお願いいたします。

山口課長 先だって、速報という形でお知らせをさせていただきましたが、このたび「宝塚市の結果概要」ができましたので、報告させていただきます。

令和4年4月19日(火)に実施されました、全国学力・学習状況調査の宝塚市の結果につきまして、本年度も教育委員会の事務局のメンバーと大

学教授による学力調査分析チームによって分析を進め、「宝塚市の結果概要」としてまとめました。なお、この結果概要ですが、宝塚市教育委員会のホームページに掲載し、どなたでも見られるようにします。また、市立小・中・特別支援学校の保護者と幼稚園・小・中・特別支援学校の教職員には文章で紹介をいたします。

それでは、お手元の冊子に沿って御説明します。

まず、1ページの1番目には調査の目的を、2番目には調査の対象人数や調査の内容を記載しております。3番目には(1)で、本市、本県それから全国の各教科の平均正答率を、(2)で全国平均と比較をした宝塚市全体の傾向を掲載しております。(1)の平均正答率につきましては、参考として昨年度の結果も掲載しております。全国と比較した傾向としましては、本年度は小学校の国語、理科、それから中学校国語に関しては「おおむね良好」。小学校の算数、中学校の数学、理科は「良好」という調査結果になっております。

続きまして、2ページ3ページにつきましては、質問紙の調査結果より「学習に対する関心」「各教科の調査時間の適切性」「規範意識」「自己有用感等」「生活習慣・学習習慣」「読書への関心等」の領域に関する質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した児童生徒の割合を掲載しています。また、本市の第2次教育振興基本計画の重点施策に該当する項目には、「重点施策」というマークと番号をつけております。

「各教科の調査時間の適切性」では、「解答時間は十分でしたか」という質問に対して、特に小学校の国語が全国に比べて割合が低くなっております。また後ほど教科に関する部分で御説明しますが、小学校の国語の無回答率が高くなっているため、そことも少し関連があるのではと思っております。今後、その原因や改善点を各校にも分析してもらいたいと考えております。

3ページの「規範意識・自己有用感等」ですが、例年本市の課題として、この領域における肯定的な割合が少し低いことが挙がっておりました。今回「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、肯定的な回答が小学生96%と中学生94%とかなり高い割合

ではありますが、肯定的な割合がさらに高くなるように、道徳に限らず、学校生活の様々な場面でこのことを伝えていく必要があると考えております。

次に、今年度も昨年度に引き続き、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問には、肯定的に回答した児童生徒の割合が高いのですが、「将来の夢や目標を持っていますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問においては、全国と比較して割合が低くなっています。

3ページの「読書への関心等」は、今年度から掲載しています。このグラフから、宝塚市の子どもたちはよく読書をしている傾向が見えますが、中学校3年生の「全くしない」と答えている割合が高いことが気になっています。これは課題だと認識しており、改善に向けて学校と事務局で取り組んでいきます。

続きまして、4ページです。質問紙調査結果から「ICTを用いた学習時間等」について、利用時間ごとの児童生徒の割合を示しております。

「前学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問では、全国に比べて使用時間が大幅に少ないという結果が出ました。これについて、様々な原因があらうかと思われませんが、例えば、4月時点の調査なので、まだこの時点で担任に一人一台授業用タブレットが配布されていなかったことや、コロナ禍によるオンライン対応のために、先生が授業で使うタブレットを配信用のカメラとして使用していたことで、対面する子どもたちのためにタブレットが使えなかったことなどが挙げられます。9月に教職員一人一台環境を整備したことから、授業でのICT活用推進に向けて、環境整備や研修等を充実させていくとともに、学校でも活用状況を把握し、有効活用に繋げていただきたいと考えています。

5ページにつきましては、「授業改善に関する取組状況」を掲載しております。昨年度の調査からも、主体的な学び・対話的な学びに関する質問に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合が高いほど学力が高く、学力向上に繋がっているという結果が分かっていますので、今年度も似たような傾向が出ていると捉えています。このことから児童生徒が主体的に取り組み、深めるための授業づくりを進めていきたいと考えています。

6ページから11ページは、各教科に関する調査結果の分析結果を掲載しております。それぞれの教科ごとに学習指導要領の領域別の本市と全国の正答率を表し、「宝塚市の傾向」と「よくできていること」「課題と学びのポイント」をまとめております。

宝塚市は、全国や兵庫県の平均値を上回っている教科が多い状況ですが、課題もいくつか見られます。特に小学校国語と中学校理科に関しては、先ほども少し触れましたが、無回答率が高くなっています。設問ごとに無回答率が出ますので、ここにはグラフとして掲載していませんが、特に後ろの問題にいくほどその傾向が強くなっています。これは、先ほども申し上げましたが、恐らく子どもたちが調査時間が足りていないと感じたことと関連があると考えております。こういった部分も学校の先生方にしっかり見ていただき、今後も学力調査分析チームでも分析を進め、先生方には学びのポイントで示した授業方法や、国立教育政策研究所から提案されている授業アイデア例などを二次元コードで載せていますので、こういったものを参考にしながら授業改善等に繋げ、課題の克服に努めていただきたいと思います。

最後に12ページです。こちらには「宝塚市の児童生徒の学習と生活の充実のために」としまして、第二次宝塚市教育振興基本計画の基本目標や重点施策を紹介して、教育委員会として取り組む方向性を示しております。

この「宝塚市の結果概要」は先ほども言いましたように、教育委員会のホームページに掲載して、児童生徒、保護者、それから教職員に紹介をすると共に、広く市民の皆さまにも見ていただけるようにいたします。また、教職員においては、宝塚市の教育課題を共有し、小学校・中学校、または幼稚園も含めた連携を意識した取組を行うための参考資料にもしていきます。

今後も、子どもたち一人ひとりを大切にする教育をより一層推進して、ふるさと宝塚を大切にする人づくりに取り組んで参りたいと思っております。簡単ではありますが、説明に関しては以上です。

五十嵐教育長

ありがとうございました。この学力調査の結果概要について、何か御質問ございますでしょうか。

では、私から。確かこの調査が始まって初期の頃から、本市の一つの大きな課題として、子どもたちの自己有用感が非常に低く、改善の取組を続けて

きたと思いますが、傾向としてはどうでしょうか。それは改善傾向にあるのか、それともまだ初期と同じような状態なのか、あるいはさらに悪くなっているのか、何か掴めていることはありますか。

山口課長 改善傾向にはあると認識しています。何か一つの取組だけ大きな効果があったわけではなく、例えば、自己表現力向上事業等では、講師の方々子どもたちの取組を認めながら、どんな子どもでも輝けるような仕掛けをしてくれま
す。そういった取組により、自己有用感に関する部分は少しずつ改善傾向にあるのは確かですが、まだ全国と比較すると多少低い傾向にはありますので、さらに取組は進めていきたいと思っております。

五十嵐教育長 分かりました。他に何か御意見、御質問ございますか。
では、松浦委員。

松浦委員 この「地域行事に参加していますか」というのは、去年も低かったと思います。コロナになって地域の行事自体が縮小されてしまい、やむを得ない部分はあると思いますが、少しずつ再開しているところはあると思います。それでも、この数字はコロナの影響と見ていいでしょうか。それとも、特にこの中学生が低いのは、地域の中で中学生が参加できる行事自体がないのか、そのあたりをどのように見ていらっしゃいますか。

山口課長 コロナの影響が一番の原因だと捉えております。これは昨年度も挙げさせていただいた通りですが、中学生の割合が少ないことは、我々も非常に気になっているところです。コロナの影響で縮小された行事が、コロナが無くなっていくにつれて復活していけばいいですけども、そのままなくなっていくような方向になってしまい、子どもたちが参加できる場が無くなることはやはり寂しい部分があります。今、教育委員会としてもコミュニティスクールや部活動の地域移行など地域と関わる取組を重視しているところですので、何とか繋がり確保しながら、地域差などは多少あるかとは思いますが、小・中関係なくここの数字を上げていきたいと考えています。

五十嵐教育長 宝塚には、そもそも中学生が参加するような行事そのものがあまりないということはないですか。

山口課長 それもあろうかとは思いますが、これは宝塚市に限った話ではないですが、中学生は部活動があつて、土日に参加するというのは難しい部分があります。

そういう状況であっても子どもたちの参加率が高い地域がある結果として、宝塚が相対的に低いということですので、地域の特性に関する部分もあるのかと思います。ただ、宝塚でも部活動のガイドラインで土日は両方とも活動しないことや、今後地域移行が進んでいくにつれて、地域の行事と繋がっていく部活動が増えていってくれたらと思っております。

五十嵐教育長

他に御質問は。石井委員。

石井委員

三つありまして、一つ目は、先ほどの松浦委員と同じところですが、全国平均との比較で、宝塚市だけがコロナなわけではないので、コロナは理由にならないと思います。その上でこれだけ差があるので、コミュニティスクールが機能しているのかどうかはとても気になります。

部活動の地域移行というのは、子どもたちにとっては部活動で、学校に地域の先生が来てくれているだけなので、感覚的には学校内のことで、恐らく地域と何かをやっているという感覚にはならないんですよ。それでいくと、先ほどもお伝えしましたが、コロナは原因にならないと思うので、近隣他市との開きがありすぎるのではないかと、とても気になりますが、どうでしょうか。近隣の数値の状況とか、例えば伊丹市の割合がとても高いのであれば、現地ワークではないですけど、そういったことができるのではないかと思います。他市さんの情報はありますか。

山口課長

他市の数値は把握することができないので、あくまでも県と全国との比較になります。

石井委員

なるほど。例えばですけども、中学生の行事であれば子ども政策課さんが「ミニたからづか」をやっていたり、青少年育成市民会議の活動ではずっと凧揚げをしているので、行事はあるけれど、中学生は来ないというのは恐らくあると思うんですね。松浦委員がおっしゃったように40%と29%は大きく違うかなと思います。

それと読書のところで、中学3年生の半分ぐらいがほとんど読書をしていないという状況で、全国と比較したらそんなに差がないので改善していく意思があるのかというのを伺いたいです。また、次の4ページのICTについて、これも先ほどと一緒にですが、教職員全員に端末を配布できていなかったという状況で授業用の端末を配信に使っていたということですけども、

これは全国とは違う状況なのでしょうか。全国では教職員みんなが端末を持っていただけども、宝塚市だけが持っていなかったから、これだけ活用が少なかつたということでしょうか。正直、全国と比べて「ほぼ毎日」と「週3回以上」を足しても倍以上開きがあるので、先ほどお伺いした内容でその差が詰まるのかちょっと疑問に感じたので、お伺いしたいと思います。

山口課長

まず読書に関しましては、宝塚市の小学校の子どもたちは、読書への関心が非常に高いと捉えております。授業が始まる前に読書タイムを取り入れているところもあります。中学校でも実施しているところがありますが、小・中一貫して続けられているのか、中学校でより読書教育に力を入れていけるかに関しましては、また調査を進めていきたいと考えています。

それからICTに関して、私が先ほど述べさせていただいた要因については、本当に一部分です。先生方に一人一台端末があったかどうかについては、全台揃っている市もあれば、全然揃っていなかった市も、担任にすら全台なかった自治体もあるなど、本当に状況は様々でした。その中で宝塚市は、一応担任には配られていましたが、これだけの低い数字になっています。研修等の充実や一人一台の環境が整ったからといって、来年度に劇的に改善するのかといたら、そんな甘いものではないかもしれないですけども、ICT教育はこれからやっていかなければならない必須の部分だと捉えていますので、できる限りの手立ては取っていきたくですし、環境が整って、先生方も使っていこうという意欲を持っておられるところですので、その機を逃さずしっかりと使っていただけるような工夫を教育委員会として考えていきたいと思ひます。

石井委員

ICTに関しては、機械の力を借りてにはなりますが、一人ひとりに寄り添ったという基本計画の重点施策2にも繋がると思うんですね。なので、ここだけはとても気になります。

山口課長

不登校の子たちと学校が繋がるツールという意味合いでもそうですし、個別最適化というところがGIGAスクール構想の目指すところでもありますので、学校に行けないことで学習の機会が得られない子どもたちに対する有効なツールとして、そういったところも考えていきたいと思ひております。

五十嵐教育長

4ページのタブレットのグラフですけども、これは先日の校園長会で私

のほうからも、この実態を皆さんがどう捉えるのかということで示しました。やはり大きな原因は、現場の教師がタブレットあるいは、ICT機器を使った授業をしていないということだと、もうそれでしかないと思っています。ですので、今回タブレット型の校務用パソコンに入れ替え、全職員がタブレットを持っているという状況になりました。環境は整えたので、先生方にちゃんと授業で使っていただくように、各学校で取り組んでほしいということはおっしゃっております。今後もそこを気にしながら、各学校の方にそういう取組を進めるように促していきたいと思っています。

来年もし、この調査の結果が全く変わらないようなことになっていたら、それは私どもの意識を相当変えていかないといけないということになってしまいますので、何とかそこは改善できるように、教育委員会が全力で取り組みたいと思います。

松浦委員

今のタブレットの件ですけれども、年度当初に数が足りなかったということと、もう一つインターネットの接続環境がきちんと整っていなかったというのを現場から聞かれていたと思います。あと、別室登校の部屋とか特別教室とかにも接続環境がないといったこともあったと思いますが、そちらの方はどうですか。

山口課長

今、学校でWi-Fiが入っているのが、職員室、保健室、全普通教室、体育館、それから一部の特別教室です。順次繋がる場所は増えていますが、出口の回線容量が1本ですので、学校規模によっては、全校生徒が一斉に使うと、遅延が発生したり、接続に難をきたす状況が起こっているというのは確かです。学校規模に応じて回線の増強を少しずつ図って行ってはいますが、やはり現場の先生からはまだまだという御意見が上がっていますので、これは今後も課題として、少しずつ増強を進めていきたいと思っております。

五十嵐教育長

他にも御意見、御質問ございませんか。篠部委員。

篠部委員

国語、算数、数学ですけれども、「勉強は好きですか」というのが低いですね。でも、「大切だと思いますか」というのは結構高いので、子どもたちは勉強しないといけない、大切だと思っているけれど好きになれないという状態だと思います。分からないから嫌いになると思うので、ここは国語、算数、数学を教える先生に工夫をしていただいて、全国も大体同じような感じ

なので、みんな苦勞しているとは思いますが、そこができるとちょっと変わるのかなという気がします。

山口課長

ありがとうございます。先ほどの6ページ「主体的・対話的で深い学び」のところとも関連すると思いますが、子どもたちが、自分から学びに向かって、自分から学びたいと思えるような授業づくりが、新学習指導要領のテーマとしては挙げられています。そういった部分で、子どもたちが主体的に取り組めるような授業ができれば、ここの数値はおのずと高くなっていくと思います。先生方にも従来やってこられた取組というものはあるにせよ、今までの一斉型の教え込む授業ではなくて、子どもたちが自分から取り組んでいって課題解決をしていくような授業へ転換し、そこにICTも活用していくことで、この辺りの数値というものが上がってきたらとは考えております。

篠部委員

「将来の夢や目標を持っていますか」というところで、これも全国平均と変わらないですけれども、小学校の時は結構高いですが、中学校へ進むと落ちるというのは、中学生ぐらいになると色々世の中のことが見えてくるので、自分には無理かなと諦めてしまうといったことで減るのだと思いますが、今トライやるウィークとかもやっていますし、宝塚の企業が減っていくのが寂しいところですけど、社会にこういう仕事がある、こういう役割がある、ということをどんどん紹介して、じゃあ自分だったらこれができるかもというものと触れ合う機会を増やしていったら良いかなと思います。目標ができれば、そのために何の勉強が必要なのかなと中学生ぐらいだったら考えるでしょうから、そんな風にしていけばいいと思います。トライやるウィークを一生懸命やってもらっていますけれども、もっと他に色々な社会と触れ合う機会というか、社会見学じゃないですけども、そういうのをどんどんやっていってもらった方が良いかなと思います。

山口課長

トライやるウィークに関しましては、今年度再開できましたが、相変わらずコロナの影響もあって、コロナ前と同様にはいかなかった部分もありました。

今は子どもたちの進路が本当に多様化していっていますので、子どもたちがどんな道を進んでいっても自己実現するイメージが描けるような、そういった取組がこの段階において必要かと思っております。

五十嵐教育長

やはり体験型の学習というのが、子どもたちにはとても大事だと思います。近年、企業さんもいろんな形で学校に入ってきて、出前授業などをやっていただいて、そこで間接的ですけども小学生も中学生もかなりいろんな体験を積むことができるようになってきています。それと合わせて、先ほどからずっと言われていますように、子どもたちに勉強が面白いと、学ぶことが面白いと思ってもらえるように、このICTも活用しながら、楽しい授業を作っていくという原点に戻って学校は取り組まないといけないなと思います。

先日、「ことばの祭典」を開催しまして、午前中は子どもたちが俳句を作って、それをみんなで採点しながらどれがいいかなと探るようなもの。午後からはビブリオバトルで自分の好きな本を紹介するというものでした。特に後半のビブリオバトルを聞いていますと、小学校3年生から中学生までが本当に自分の好きな本を楽しそうに上手に、みんなにいきいきと紹介していました。言葉もすごく豊かですし、やっぱり好きなことを一生懸命やっていると、ああなるのだなと思いました。だから、私たちは子どもたちにたくさんの体験だとか授業の方法も内容も豊かなものを与えていくことで、子どもたちがこれ面白い、あれ面白いと思うような授業づくりをこれからも続けていかなければいけないなとつくづく思いました。課題はこのようにたくさんありますが、教師が子どもと一緒に楽しく授業をやっていけば、それは一つひとつ解決していけるなと思っています。特にICTの活用については、厳しい御指摘をいただいたように、来年は今年と同じようなことではいけないと思っておりますので、そこは重点的にやっていきたいと思っています。

他に、御意見御質問ございませんか。よろしいでしょうか。

木野委員、お願いします。

木野委員

質問と感想があります。質問が、「地域の行事に参加していますか」のところ、他市との比較はないということでしたけれども、兵庫県との比較はありますか。もし、今分かれば教えていただけますか。

山口課長

兵庫県の平均は、小学校6年生で大体50%ほどです。中学校も全国とほぼ一緒で40%ほどになります。

木野委員

県の中でもちょっと低いですね。

感想ですけども、毎年感じていることですが、自己有用感が改善傾向に

あることは一定良かったかなと思います。全体を見てみますと、宝塚市の中でも地域差はありますが、比較的教育熱心な家庭も多くて、塾に行っているお子さんも多いので、学力的には全国の中で、恐らく県の中でも高いと思うんですね。その辺りが理数系などで表れていると思います。しかし、小学生の国語で時間が足りなかった、無回答率が高いというのは、恐らく自由記載、選択ではなくて十文字以内で答えなさいといった記載のところで答えが分からない、間違ったらどうしよう、算数とか数学のように必ず正解が出るのではなく、こんな風を書いて笑われたらどうしようというところで時間を費やして、結局書けなくて無回答になっているのではないだろうかというような気はします。つまり、主体的に考えていくというアクティブラーニングが要求されている時代において、受け身的な教育が中心で、教育熱心で塾に行って算数とか理科のように答えがきっちり出るものについてはしっかり勉強して点数が取れるといった傾向を毎年感じています。

中学生の国語で無回答率が低いのは、憶測ですけれども、中学生ぐらいになると、何も書かないよりも何か書いた方が点数になるという知識、知恵がついてくるからではないかと。つまり、親の指導もあるかもしれませんが、点数が目的で、点数を取って良い高校に入る、そういう宝塚市全体の傾向とこののを毎年感じますね。

読書が中学生で少ないのも、やはり塾で忙しく、結局、受験勉強に時間を使っているのも、せっかく宝塚の素晴らしい読書の環境があっても、小学校の時は本を読むのに、中学生になると本を読まなくなるのは、子どもや親、もしかしたら教師も含めて、宝塚市全体がそういう方向にあるのではないかと毎年感じております。やはり、今後新しい時代を生きていくためには、いつも言われていることですが、アクティブラーニング、自分で考えていける力をつけていかないと、このままの傾向が続く、宝塚市は全国平均よりも点数が高いと喜んでいると、時代についていけない子どもに成長してしまうのではないかと危惧しております。

山口課長

ありがとうございます。6ページで、小学校6年生は、探すこと、聞くこと、読むことについては良くできているけれども、書くことや言葉の使い方、言語文化に関する事項でやはり弱い傾向が見られています。委員がおっしゃ

ったように、自分の言葉で表現をする、自分の思いで表出するというところに課題があるというのはまさしくその通りだと思います。先ほど教育長から、ことばの祭典のビブリオバトルの話がありましたけれども、あのような場で自分の思いや自分の言葉で喋る機会ですとか、普段の授業の中でちゃんと自分の思いというものを出していけるような取組は、日常的に必要であろうと考えています。

それから、中学校の国語の無回答率ですが、昨年度までは中学校も含めて、国語科の無回答率が非常に高い傾向が出ておりましたが、今年度の中学校に関しては、かなり改善されました。改善された理由については、小学校の改善のヒントになるかと思しますので、今後も分析を進めていきたいと思っております。

五十嵐教育長 他に御意見ありませんか。石井委員。

石井委員 先ほどの、地域行事の参加やICTの活用に関して提案ですが、他市さんももちろん結果を公表されると思うので、その中で数字が高い自治体へヒアリングに行くことは難しいですか。他市さんの状況をここで共有いただければ、方法を考えることもできるのではないかと思います。いかがでしょうか。

山口課長 そういうことはできるかと思えます。どこまでデータを公表するかというのは各自治体での判断ですが、もし近隣でこの数字が高いような自治体がありましたら、ぜひお話は伺いたいと思えます。

石井委員 また、共有いただけますか。

山口課長 はい。

石井委員 よろしくをお願いします。

五十嵐教育長 他によろしいでしょうか。篠部委員。

篠部委員 これはホームページなどで公表しますよね。

山口課長 はい。

篠部委員 色々意見が出てくると思いますが、また良い意見がありましたら、委員会でも紹介してください。

山口課長 分かりました。

五十嵐教育長 他によろしいですか。

委員	(なし)
五十嵐教育長	それでは、予定の案件は以上です。 他に何か報告いただくようなことはありますでしょうか。
岡本課長	ございません。
五十嵐教育長	それでは、本日の教育委員会をこれで閉会いたします。 どうもありがとうございました。

閉会 午後 3時00分
